

# 発掘成果をふりかえって 2006

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



2006年も数多くの発掘調査を行ない、貴重な資料を得ましたので、ここに主な成果をまとめます。また、当研究所は昨年11月に設立30周年を迎えました。記念事業として連続講座や遺跡めぐりの実施をはじめ、考古資料館では京都発掘30年特別展示「都のうつわ」を開催しています。



1 平安京右京五条三坊十四町・下層 右京区西院日照町

平安京の下層から弥生時代中期から後期にかけての方形周溝墓を7基確認した。うち、一辺19mのものは京都市内では最大級。調査地は西院遺跡と西京極遺跡の中間に位置することから、集落は一帯に大規模な広がりを見ることがわかった。



2 福西古墳群 西京区大枝東長町

古墳時代末期の群集墳で知られているが、今回新たに横穴式石室を発見。すぐ隣と今回の古墳2基が並んでいたようだ。7世紀前半に造られ、後世に墳丘が削られているが石室の保存状況は良い。玄室にはこぶし大の石が敷き詰められ副葬品の須恵器も出土した。



3 長岡京右京二条三坊九町・十六町 西京区大原野上里南ノ町ほか

調査地は長岡京の北西部に当たり、昨年度より引き続いての調査である。一条大路南側溝を検出し、平行する内溝との間には柱列が見つかった。溝の南側には底付の掘立柱建物跡があり、甕を据付けたとみられる穴が12基並んでいた。



4 平安京右京六条四坊八町・西京極遺跡 右京区西院月双町

平安時代前期の掘立柱建物跡、奈良時代の竪穴住居跡と総柱建物跡、古墳時代の竪穴住居跡を同じ面で検出した。さらに下層からは縄文・弥生期の土器も出土し、長期に渡り人が住み続けていた。



5 平安宮 正親司 おきみのつかさ 上京区下長者町通七本松西入る鳳瑞町

平安宮の北西部にあった正親司の中心地区に位置する。宮の北西部の調査事例は少ないが、平安前期の区画溝と建物跡や柵跡を検出した。土壌からは、さまざまな土器類や瓦が出土している。



6 平安京右京一条三坊三町 中京区西ノ京大炊御門町

平安時代中期から後期の掘立柱建物5棟と柵、土壌を検出した。土壌には土師器の皿と襦が埋納してあり、地鎮に関する祭祀の跡と考えられる。勘解由小路に面した役人の住居であろう。



7 山科本願寺跡・出土遺物 山科区西野山階町

室町時代の山科本願寺跡から採集した焼土から「堆黒」ついでくの破片約100点が見つかった。洗浄中にふるいにかけて発見したもので、黒漆を重ね塗りして彫刻した輸入品。同時に金蒔絵の破片も発見。



8 伏見城跡 伏見区竹中町ほか

伏見区総合庁舎の建設予定地で、伏見城城下町の造営跡が見つかった。土壌からは漆器碗・皿・箸・杓子などの木製品がまとめて出土した。調査地の一部は江戸時代、寺院の墓地であった。



9 三条瀬戸物屋町 中京区富小路上の福長町

江戸時代初期のごみ捨て穴から、大量の陶磁器類や金箔瓦、木製品に混じって魚の骨や植物の種も出土した。三条通には「せと物や町」の記述もあり、豊かな町衆の暮らし向きを彷彿とさせる。